

2025年度(後期)

作業療法学科 2 学年
教育計画

関東リハビリテーション専門学校

2025年度 教育計画 (作業療法学科)

学 年 : 2 科 目 名 : OT管理学 (OT管理学)

担当講師名 : 奈良 研治

単 位 : 2 単位 教育時間 : 30 時間

教科書 (出版社) : 作業療法管理学 医歯薬出版社

参考書 (出版社) : なし

教育目標 【 到達目標 】 : 管理・運営の基礎について学び、職業人としての作業療法士像を理解する。

【講義概要】 組織マネジメント・リスク管理・職業倫理・職域と役割・作業療法と取り巻く諸制度・医療福祉の

職場管理と運営を入門的に扱い、これらの基礎を理解する。

回数	項 目	内 容
1	作業療法とマネジメント	マネジメントとは・目標管理と目標設定
2	組織の成り立ちとマネジメント	病院組織の特徴と組織における作業療法士の役割
3	情報のマネジメント	診療情報と記録・情報の取り扱いに関する注意事項
4	医療サービスのマネジメント	サービスの基本的特性と記録・情報の取り扱いに関する注意事項
5	医療安全のマネジメント	リスクマネジメント・医療事故の報告書の書き方
6	業務のマネジメント①	人材・部品・経済的事項に関するマネジメント
7	業務のマネジメント②	情報・時間・ストレスに関するマネジメント
8	業務のマネジメント③	マネジメントの具体的な実践例
9	作業療法の役割と職域	関連法規・職能団体の意義と役割・これからの職域
10	作業療法士の職業倫理	職業倫理と研究倫理・対象者の権利と尊厳
11	作業療法と諸制度	医療保険・介護保険・障害福祉・地域包括ケアシステム
12	臨床実習制度の理解	臨床実習の管理運営・指導方法
13	キャリア開発	実践と研究・資格認定制度・ワークライフバランス
14	総合的学習	過去13回分の振り返りと演習
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 講義中心の授業を行う。

2025年度 教育計画 (作業療法学科)

学 年 : 2 科 目 名 : OT評価学(OT総合演習Ⅰ)

担当講師名 : 笹野 直人

単 位 : 1 単位 教育時間 : 30 時間

教科書
(出版社) : なし参考書
(出版社) :

教育目標 【 到達目標 】 : 身体障害評価において評価計画、目標設定、治療プログラムの立案ができる。

検査・測定を円滑に実施することができる。

【講義概要】

身体障害評価について、より臨床的、総合的内容を実技練習、課題演習を通して学習する。

回数	項 目	内 容
1	身体障害評価演習 (1)	総合演習
2	身体障害評価演習 (2)	総合演習
3	身体障害評価演習 (3)	総合演習
4	身体障害評価演習 (4)	総合演習
5	身体障害評価演習 (5)	総合演習
6	身体障害評価演習 (6)	総合演習
7	身体障害評価演習 (7)	ケーススタディ
8	身体障害評価演習 (8)	ケーススタディ
9	身体障害評価演習 (9)	ケーススタディ
10	身体障害評価演習 (10)	ケーススタディ
11	身体障害評価演習 (11)	総括
12	身体障害評価演習 (12)	総括
13	身体障害評価演習 (13)	総括
14	身体障害評価演習 (14)	総括
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 レポートの成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 専任教員(作業療法士/身体障害領域の実務経験)
実技とケーススタディを中心とした形式で授業を行う。

2025年度 教育計画 (作業療法学科)

学 年 : 2 科 目 名 : OT治療学8(身体障害治療学Ⅱ)

担当講師名 : 板倉 麻紀

単 位 : 2 単位 教育時間 : 30 時間

教科書 : 作業療法学全書 改訂第3版 第4巻 作業治療学1 身体障害 (協同医書出版社)

参考書 : (出版社)

教育目標 【到達目標】 : 脳卒中を除くさまざまな身体障害の障害像を理解し、治療に際しての観点・考え方を

明らかにし、治療プログラムの立案ができるようになる。神経疾患・筋疾患の一部については演習を行う。

【講義概要】

疾患ごとの病期や治癒過程における作業療法士の役割を学ぶ。

神経・筋疾患については、症例対応の類似性と特異性についてのディスカッションを行う。

回数	項目	内容
1	内部障害 (腎疾患)	腎不全 (人工透析) 患者の生活動作や社会参加について学ぶ。
2	内部障害 (糖尿病)	糖尿病とその3大合併症へのアプローチを学ぶ。
3	内部障害 (呼吸器疾患)	在宅酸素療法における作業療法士の役割とADLの工夫を学ぶ。
4	内部障害 (心疾患)	心電図のみかたを学習する。
5	内部障害 (心疾患)	心疾患を合併する運動器障害患者への対応とリスク管理を学ぶ。
6	神経・筋疾患	神経筋疾患の演習に向けて、各疾患の原因・病理・病期などを学ぶ。
7	神経・筋疾患	
8	神経・筋疾患	
9	グループワーク	作業療法の臨床現場で出会う神経筋疾患について、さまざまな視点から分類を試みる。発表用資料・提出用資料を作成する。詳細は第5回授業時にプリントを配布して公表する。オンラインでの作業を行う可能性あり。
10	グループワーク	
11	グループワーク	
12	グループワーク	
13	発表	持ち時間30~40分間で発表を行う。詳細は第5回授業時にプリントを配布して公表する。各種プレゼンテーションツールの使用方法について、各自で下調べをしておくことが望ましい。
14	発表フィードバック	
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験とグループ発表の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 専任教員 (作業療法士/身体障害領域の実務経験)

内部障害については講義中心、神経・筋疾患は演習を行う。

2025年度 教育計画 (作業療法学科)

学 年 : 2 科 目 名 : OT治療学11(精神科OT学IV)

担当講師名 : 齋藤 勝

単 位 : 2 単位 教育時間 : 30 時間

教科書 : 精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版
(出版社) : (中央法規出版)参考書 :
(出版社) :

教育目標 【 到達目標 】 : 精神科OTにおける基本的な流れを再確認し、各疾患ごとの特徴や症例をもとに

評価や治療について学ぶ

【講義概要】

これまでの精神科関連授業の内容を元に、各疾患の症状・病期に合わせた作業療法士の関わりを学ぶ。

疾患別の精神科作業療法という枠組みで学習を進める。

回数	項 目	内 容
1	精神科医療について	精神科評価について振り返りながら精神科医療について確認する。
2	各疾患の理解と作業療法展開①	統合失調症の理解と作業療法について考える。(事例)
3	各疾患の理解と作業療法展開②	統合失調症の理解と作業療法について考える。(事例)
4	各疾患の理解と作業療法展開③	統合失調症の理解と作業療法について考える。(事例)
5	各疾患の理解と作業療法展開④	気分障害の理解と作業療法について考える。(事例)
6	各疾患の理解と作業療法展開⑤	神経症の理解と作業療法について考える。(事例)
7	各疾患の理解と作業療法展開⑥	神経症の理解と作業療法について考える。(事例)
8	各疾患の理解と作業療法展開⑦	摂食障害の理解と作業療法について考える。(事例)
9	各疾患の理解と作業療法展開⑧	依存症候群の理解と作業療法について考える。(事例)
10	各疾患の理解と作業療法展開⑨	依存症候群の理解と作業療法について考える。(事例)
11	各疾患の理解と作業療法展開⑩	パーソナリティ障害の理解と作業療法について考える。(事例)
12	各疾患の理解と作業療法展開⑪	パーソナリティ障害の理解と作業療法について考える。(事例)
13	各疾患の理解と作業療法展開⑫	認知症の理解と作業療法について考える。(事例)
14	新しい精神科医療の枠組みと作業療法	地域生活支援と作業療法、医療観察制度
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

2025年度 教育計画 (作業療法学科)

学 年 : 2 科 目 名 : 地域OT学(地域生活マネジメント実習)

担当講師名 : 奈良 研治

単 位 : 2 単位 教育時間 : 45 時間

教科書
(出版社) : なし参考書
(出版社) :

教育目標 【到達目標】 : 地域生活者(在宅生活者)に対する作業療法の実際を体験する。

介護予防的サービスにおける作業療法士の役割を理解する。

チームにおける主体的なふるまいを身につける。

【講義概要】 立川市社会福祉協議会が主催する地域サロンに参加し、実践実習を行う。

実習前後のグループワークにおいて、当日へ向けての準備と実習を振り返り行う。

個ではなく集団での行動をメンバーが主体的に定め、地域リハチームの活動を疑似的に体験する。

回数	項目	内 容
1	導入	地域生活マネジメント実習実施要項の説明とオリエンテーション
2	導入	地域生活マネジメント実習実施要項の説明とオリエンテーション
3	実習前グループワーク	グループ演習(フリータイム)
4	実習前グループワーク	社会福祉協議会の成り立ちや立川市社会福祉協議会について学ぶ。
5	実習前グループワーク	グループ演習(フリータイム)
6	実習前グループワーク	実習に向けて、役割分担・アクティビティ・進め方などを話し合う
7	実習前グループワーク	(担当教員の指導を受ける場合は前日までにアポをとること)
8	実習前グループワーク	
9	グループ発表	社協のサロンで実習当日に行う内容をグループごとに発表する
10	グループ発表	社協のサロンで実習当日に行う内容をグループごとに発表する
11	準備的グループワーク	グループ実習(フリータイム)
12	準備的グループワーク	実習に向けて、必要な物品の買い出しなどの準備を行う
13	準備的グループワーク	(担当教員の指導を受ける場合は前日までにアポをとること)
14	準備的グループワーク	
15	実習	立川市社会福祉協議会主催の地域サロンにおいて実習を行う
16	実習	(開催日時についてはサロンによって異なる)
17	実習	
18	実習	
19	実習後グループワーク	グループ演習(フリータイム)
20	実習後グループワーク	実習を振り返ってレポートにまとめる

2025年度 教育計画 (作業療法学科)

学 年 : 2 科 目 名 : 臨床実習(臨床実習必修-I)

担当講師名 : OT 教員(板倉)

単 位 : 2 単位 教育時間 : 60 時間

教科書
(出版社) : なし参考書
(出版社) :

教育目標 【 到達目標 】 : 評価実習と関連の強い科目である。実習前評価 (OSCE) ・評価実習・

実習後評価 (口述発表) を通じて、卒前の作業療法評価学習のまとめとする。

【講義概要】

主にOSCE (客観的臨床能力試験) とその演習から成る。OSCEで問われる内容は事前に通達されないが、

さまざまな対象者を想定した演習の中で、すでに学んだ各種検査方法を実際の対象者に合わせて行うことを学ぶ。

回数	項 目	内 容
1	全般説明	評価実習の目的・内容・到達目標・実習前評価についての説明
2	OSCEの説明	実習前評価 (客観的臨床能力試験) についての説明
3	評価特論	精神科領域・面接 (齋藤)
4	評価特論	コミュニケーション (齋藤)
5	評価特論	身体障害領域の評価 (笹野)
6	評価特論	身体障害領域の評価 (笹野)
7	評価特論	身体障害領域の評価 (笹野)
8	記録・報告	POSと自由記載法
9	記録・報告	レジュメ形式とMTDLP
10	実技	評価実技
11	実技	評価実技
12	実習前評価	OSCE
13	実習前評価	OSCE
14	実習前評価	OSCE
15	実習前評価	OSCEフィードバック
16	実習前評価	OSCEフィードバック
17	ケーススタディ	観察記録演習
18	ケーススタディ	観察記録演習
19	ケーススタディ	観察記録演習
20	ケーススタディ	観察記録演習